

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号)	提案機関名	神奈川県内水面養殖業者協議会	
148			
※記入不要			
要望問題			
アユ冷水病診断等の迅速化			
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】			
<p>アユ冷水病は魚病診断件数の約6割に上り、そのうち半数以上はビブリオ病等他の疾病との混合感染です。</p> <p>アユ冷水病の診断は酵素抗体法により数時間で可能となりましたが、他の疾病の診断や薬剤感受性試験の結果が出るまでに一定の日数を要します。</p> <p>発病初期の治療は被害を最小限に抑えるために非常に重要です。</p> <p>そこで、アユ冷水病に混合感染する疾病に対する診断の迅速化及び各種疾病に対する薬剤感受性試験の迅速化を要望します。</p>			
解決希望年限	①1年以内	<input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内	③4～5年以内 ④5～10年以内
研究対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①研究所対応	②委託研究	③共同研究 ④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（②根府川試験場 ③三浦試験場 ④津久井試験場） ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所（ <input checked="" type="checkbox"/> ⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター		
※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。			
回答機関名	水産総合研究所内水面試験場		
部 署	生物工学チーム		
対応区分	①実施	<input checked="" type="checkbox"/> ②実施中	③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
	水産動物保健対策		
対応の内容等			
<p>疾病毎に治療薬が市販されていますが、治療薬のない疾病が存在し、また、耐性菌の出現も危惧されることから、確定診断及び薬剤感受性試験結果に基づく対応が望ましい。</p> <p>このため細菌性疾病の診断は、検体から細菌を分離培養し、更に純粋培養した後、種類の同定を行い確定します。これと平行して薬剤感受性試験が行われます。</p> <p>細菌の分離培養には種類により1～6日間、純粋培養も同等の期間を要することから、一定の日数を必要とします。</p> <p>早期治療は被害を最小限に抑えるために重要であり、今後、診断や薬剤感受性試験の期間を短縮していく必要があります。アユ冷水病及び関係する疾病の研究は全国的に行われており、新たな診断手法や培養法が検討されています。当场では、新たな知見に関する情報収集を行い確定診断及び薬剤感受性試験の迅速化を検討して参ります。</p>			
解決予定年限	①1年以内	<input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内	③4～5年以内 ④5～10年以内
備考			